

## 第1章 調査概要

### 1. 1 調査の目的

道路橋の整備や維持管理を合理的に行っていくためには耐荷力・耐久性いずれに対しても大きな影響をもつ自動車交通の実態について把握し、設計基準の見直しや維持管理への反映を図ることが重要である。

道路構造物管理研究室では、過去に橋梁部材をセンサーとして路下から供用状態のまま橋梁上を通過する大型車の通行状態を計測できるシステムを開発するとともに、多数の路線で交通荷重の実態について計測を行っている。ここでは、このシステムを用いて得られた自動車荷重のデータのうち、大型車交通量や混入率などから特徴が偏らないように選定した 21 箇所の調査地点で得られたものについて、交通特性等の分析を行うとともにデータ集としてとりまとめた。

なお、システムでは橋梁部材の応答から橋梁上を通過する車両の重量を、間接的に計測して事後処理により解析的に荷重を推定するため、原理上、個々の車両の車種・重量・軸重等の判別や計測の精度にはある程度の誤差が避けられず、その信頼性も一定ではないが、本資料では計測機器の不具合などによるあきらかな異常値以外については、基本的に機械的に処理を行ったものをそのまま採用し、実際の車両との対応や計測値の精度の評価は特に行っていない。したがって、ここに示す分析結果等の解釈にあたってはその点に注意が必要である。